留学生のスピーチ
Fang & Rin

ホウ・イチさん(Fang・台湾出身)

ぼくの母語は中国語で、アメリカなどの英語圏には行ったことがありません。しかし、ぼくの趣味のビデオゲームをするためには、他の国で同じゲームをする人たちとコミュニケーションを取る必要がありました。この状況からぼくは「英語を話せるようになりたい」と思うようになりました。

私たちみんなは英語が母語ではないので、文法ミスをしてしまうことが怖いするかもしれません。しかし、ネイティブスピーカーのように英語を話せなくても良いんです。皆さんにも、ぼくのような「きっかけや情熱」を見つけ、ミスを恐れずに英語の勉強をしていって欲しいです！

イムラマーイ・パパーワリンさん(Rin・タイ出身)

私が英語を使うのは学校のみで、普段の生活で英語を使うことはありません。私は、「英語で話されているラジオ番組をきく」という趣味を見つけました。私のように、自分の好きな英語の勉強方法を見つけて実践し、継続してみて下さい。

また、皆さんは周りの家族や友人、先生に批判されることが怖くて、英語を堂々と話せない状況になったことはありませんか？この批判のし合いを終わらせるために、皆さんが周りの人を批判することをやめることから始め、お互いを応援できる環境を作っていきましょう！

私たちが伝えたい思い

ネイティブスピーカーの様に話せなくても、コミュニケーションが取れているなら大丈夫！他の国の人もみんな自国の訛りで話しているよ。みんなも気にせず、世界中から日本に来てくれた人や、将来海外で出会う沢山の素敵な人たちとどんどん話して友だちになろう！

イベント紹介

関西大学外国語学部高橋ゼミは、
UR都市機構・八幡市との
男山地域まちづくり連携協定機構に
基づく活動を行っています。
その一環として、
ノンネイティブの英語をテーマとしたイベント
「LET'S SPEAK ENGLISH!」
（2023年6月10日）を開催しました。

イベントでは留学生にも協力してもらい、
地域住民の皆さまとクイズやゲームなどを通じて
英語を使って交流を深めました。

制作：高橋秀彰ゼミ
石守楓　英真生子
佐野由佳　福田一貴
中島優衣　藤本夕奈
野村麻衣　高橋秀彰教授

フォローお待ちしております♪

TAKAHASHI_ZEMI2021

関西大学 外国語学部 高橋秀彰ゼミ

Let's Speak English!

~将来の自分へ、英語という種を蒔いてみませんか？~

クイズに挑戦！

① 世界で母語または第二言語として英語を使用する人は何人でしょうか？

1. 約5億人　2. 約10億人　3. 約15億人

② 英語を話す人のうち一番多いのはどのような人でしょうか？

1. 英語を母語として使う人
2. 英語を外国語として使う人

③ Jet Program(地域レベルで国際化を目指すプログラム)の中でALT(外国語指導助手)として英語を教える人のうち英語を母語として使う人はどのくらいいるでしょうか?

1. 68%　2. 78%　3. 88%

④ 標準的な英語はどの英語だと思いますか？

1. アメリカ英語　2. イギリス英語
3. インド英語　4. シンガポール英語

⑤ 共通語としての英語(English as a Lingua Franca)に基準はあると思いますか？

1. ある　2. ない

① 約15億人が世界で英語を使用しています。

この15億という数字は、インドや中国の人口とほぼ同じです。このようなことから、英語が非常に多くの人に使用されていることがわかると思います。

ちなみに、英語母語話者数はおよそ3億8千万人で、英語を生活の一部で第二言語として使用する人の数は、およそ11億2千万人もいるのです。

② 英語を外国語として使う人です。

英語を話す人の中では、英語を日常的に使用する人の方が少ないです。そして、英語を話す人がみな流暢に話せるというわけではありません。そのため、英語を話す際、自分が使える範囲の英語で相手に伝わるように話すことが大切です。

③ 88%です。

その中でも最も多い国がアメリカです。そして英語を母語としない国の中で最も多いALTはフィリピンで、なんと0.04%です。このことから、いかに私たちは日常生活において英語を母語とする国以外の英語に触れる機会が少ないということがわかります。

ALTの採用において、英語の非母語話者が増えていってもいいのではないでしょうか😊

④ 全ての英語です。

このように、ネイティブスピーカーの中にも様々な英語が存在しています。そして、それら一つ一つが間違った英語ではなく、全て標準的な英語です。そして英語はすべての人のもので、ノンネイティブが話す英語が間違った英語、恥ずべき英語と思う必要はありません。

出典:

Statista Research Department. (2023, Jun 16). The most spoken languages worldwide in 2023.

Jenkins, J. (2009). "English as a lingua franca: interpretations and attitudes." *World Englishes*, 28(2), pp. 200–207.

Jenkins, J. (2015). "Repositioning English and multilingualism in English as a Lingua Franca." *Englishes in Practice*, 2(3), pp. 49–85.

行森雅美(2017)「国際語としての英語における標準語イデオロギー規範主義」『異文化コミュニケーション論集』第15号, pp. 79–91.

⑤ 基準はあります。

様々な文化的背景を持つ人が、好き勝手に英語を話してしまうと、異文化間でのコミュニケーションが難しくなってしまいます。ELFは、世界中の人々がコミュニケーションをする際に使用される英語であり、お互いに理解し合うために共通の基準が必要なのです。しかし、英語を母語としない英語学習者にとって、英語の発音やアクセントがとても難しく、習得が困難な場合があります。そこで、イギリスの言語学者ジェニファー・ジェンキンズは、学習者が最低限、習得しなければならない項目を示したLingua Franca Coreを提唱しました。これを参考に学習することにより、ELFの習得に繋がります。

興味がある方は、是非検索してみて下さい！

〈World Englishesという概念〉

英語は、1つだけということではなく、様々な種類が存在する、「複数形」で表現しなければならないという考えです。英語は欧米のみならず、英語の母語話者でない人々によって広く使われています。それぞれの話者の言語や文化によって影響を受けながら、発展しています。そのため、World Englishesのように英語はもはや複数形とした考え方が広まってきています。

〈Kachruの同心円モデル〉

この3つの円(右下の図)は、英語を話す人々の数をグループ別に大きさを変えて、表しています。1番大きなピンク色の拡大円には、日本や中国、韓国など、英語を日常的に使用することはないが、外国語として英語を使用している国が含まれています。青色の外円には、インドやシンガポールなど、英語を母語ではないが、普段の生活で使用している国が含まれます。黄色の内円は、アメリカやイギリス、オーストラリアなど英語を母語として使用している国を表していますが、1番数が少ないことが分かります。

出典:

Jenkins, J. (1998). "Which pronunciation norms and models for English as an International Language?" *ELT Journal*, 52(2), pp. 119-126.

様々な英語の歴史

インドでの英語

インドでは、17世紀にイギリスが東インド会社を設立したことがきっかけで、英語が広まりました。その後イギリスの直接統治が始まり、特に英語教育に力を入れるようになりました。イギリス人は、英語教育をインド人に近代思想を身につけさせるための手段であると考えていました。これにより、インド人は西洋の知識と、様々な地域の人々とのコミュニケーション手段である英語を得たことで、国家が統一され、インドの繁栄に繋がりました。
(Sridhar 2020, pp. 247-250)

フィリピンでの英語

1565年から1898年までフィリピンはスペインに統治されていましたが、その後、1898年から1945年までアメリカに統治されていました。スペイン語は定着しませんでしたが、アメリカは1901年にアメリカ人教師を派遣することで、教育的戦略をとり、英語を定着させました。その後、50年以内に人口の3分の1が英語を話すようになりました。英語は、フィリピンの様々な言語と接触して、フィリピン英語ができました。現在、英語は第二言語として使用されています。
(Martin 2020, pp. 480-481)

マレーシアでの英語

1874年にマレーシアはイギリスの植民地となり、英語が持ち込まれました。イギリスは学校に英語を導入し、英語とマレー語を教育に使い始めました。すでに使われていたジャウィ文字にローマ字が加えられました。現在でもマレーシアにはマレー系、中国系、インド系以外にも多数の民族が存在し、少なくとも80以上の言語が話されています。1957年の独立時にマレー語が国語となり、英語は第二言語とされています。
(Hashim 2020, p.374)

様々な英語の特徴

インド英語の特徴

・二重母音の間に有声音が挿入されることがある。
(Sridhar 2020, p. 254)
(例)our (私たちの) [ááuar] → [ávar], flower (花) [fláuar]→ [flávar]

・ヒンディー語の人を表わす接尾辞 – walaを用いることがある。
(Sridhar 2020, p. 255)
(例)新聞配達員＝ paper – wala

・主語の名詞の数、人称、時制に関係なく、付加疑問として常にIsn't it? を使う。(Sridhar 2020, p. 264)
(例)You aren't going home, are you? →
You aren't going home, isn't it? (あなたは帰らないんでしょ？)

フィリピン英語の特徴

・/f/が/p/に、/v/が/b/になる。(Tayao 2008, p. 162)
(例)factory (工場) [fǽktəri] → [pǽktəri]

・動詞を過去形にしない。(Hickey 2005, p. 577)
(例)And then, I went to the public school. →
And then, I go to the public school.
(そして、私は公立の学校に行った)

・タガログ語などの現地の言語だけでなく、スペイン語からの借用語がある。(Hickey 2005, p. 578)
(例)タガログ語から：boondock「山」
スペイン語から：despedida「送別会」

マレーシア英語の特徴

・有声子音が無声音化する。(Hashim 2020, p.385)
(例)give (与える) [giv] → [gif]、 easy (簡単) [ˈiːzi] → [iːsi]、
pleasure (楽しみ) [pléʒər] → [pléʃə]

・Wh-疑問文においてdoが省略される。(Hashim 2020, p. 389)
(例)What book do you want to read? →
What book you want to read? (どの本を読みたいですか？)

・alreadyと同じ意味でliaoを使う。(Hashim 2020, p.389)
(例)No more sugar liao. (もう砂糖はいらない。)

出典:

Hashim, A. (2020). "Malaysian English." In Bolton, K., Botha, W. & Kirkpatrick, A. (Eds.), *The Handbook of Asian Englishes*, pp. 373-397.

Hickey, R. (2005). "South-East Asian Englishes." In Hicker, R. (Ed.). *Legacies of Colonial English Studies in Transported Dialects*, pp. 574-579.

Martin, I. P. (2020)"Philippine English." In Bolton, K., Botha, W. &Kirkpatrick, A. (Eds.), *The Handbook of Asian Englishes*, pp.479-500.

Sridhar, S. N. (2020). "Indian English." In Bolton. K., Botha, W. & Kirkpatrick, A. (Eds.), *The Handbook of Asian Englishes*, pp. 243-277.

Tayao, M. L. G. (2008). "A lectal description of the phonological features of Philippine English." In Bautista, M. L. S. & Bolton, K. (Eds.). *Philippine English Linguistic and Literary*, pp. 157-174.